

アフリカ良いとこ，一度はお出で...

「ボンジュール！ サヴァ？」 そして握手をする。ここセネガルに赴任して何回この挨拶をしたことだろう。私が赴任したのは昨年の4月。あれから早1年が過ぎました。最初、空港に降り立ったときの不安な気持ちはどこへ行ったのだろう。ついこの間のことのようにであり、遠い過去のようにであり、今は懐かしく思えます。

申し遅れました。マレーシアの矢吹さんからバトンを受け取った宇都です。矢吹さんとは大阪短大で4年間一緒に働いた仲で、子どもが同級生ということもあり、キャンプへ行ったり温泉に行ったりと家族ぐるみの付き合いをさせていただきました。「矢吹さんの頼みやったら、しゃーないなー」と引き受けました。

まず、セネガルってどこ？という方のために簡単に説明すると、アフリカの最西端の国で首都はダカールです。そう、あのパリダカで有名なダカールです。国土面積は日本の約半分、人口は約900万人で、公用語はフランス語です。気候は雨季と乾季に分かれていて、大体7月から9月頃までが雨季で、その他は乾季です。

日本人がアフリカと聞いてイメージするのは、たくさんの自然動物、黒人、砂漠、何も無いといったところでしょうか。確かに私自身も同じようにイメージしていたし、セネガルへの赴任が決まってからは、周りの人たちから「キリンやゾウを飼うの？」「槍を持ってジャンプするの？」等、質問されたのを覚えています。しかし、実際には大きく違っていました。特にアフリカでも首都となると立派なビルが建ち並び、インターネットもでき、日本では持っていなかった携帯電話も今は持っています。車なん



かそんなに走っていないだろうと思っていましたが、BMW、ベンツ、プジョー等のヨーロッパ車や日本車が町にあふれんばかりに走っていて、日中はすごい交通渋滞です。ライオン、象、キリンなどは動物園に行かないと見ることはできません。ただ、ダカールから車で郊外に少し走ると、「星の王子さま」の絵本に描いてあるとおりの、バオバブの巨木の森林に驚かされます。360度広がるバオバブは一見の価値ありです。

少しはアフリカに対するイメージが変わりましたか？

アフリカの話はこれくらいにして、ここでの私の仕事は1984年にJICAプロジェクトで建てられた職業訓練校（CFPT）に工科短大レベルの工業情報技術科と制御技術科を立ち上げることで、昨年10月に予定どおり開校しました（写真は教育大臣を招いた開校式で学生と一緒に撮ったものです。前列左が私です）。開校当初は日本からの機材が到着しておらず授業のやり繰りに苦労しましたが、今は何とか軌道に乗り始めました。

CFPTの先生たちは非常に勉強熱心で技術レベルも高く、またほとんどの先生は日本へ研修に行っているため、多少の日本語を話せます。中には流暢に

日本語を話す先生もいて驚かされます。とはいえすべてを日本語で行えるわけではなく、フランス語、英語、日本語とポディーランゲージ（実はこれが一番多い？）でコミュニケーション（ちゃんと技術移転も）しています。そんなこんなで仕事のほうは順調？に進んでいます。

今回の赴任に当たり一番心配だったのは4年生と5年生になる娘たちの学校のことでした。日本人学校がないため、インターナショナルスクールへ通うことになり、登校初日などは泣いて帰ってくるのではと妻と心配しましたが、取り越し苦労でした。2人とも「休みがなければいいのに」と学校が楽しく

て仕方がないようです。

休日は、家族そろってテニス、プール、ゴルフと（仕事よりも？）充実した日々を送っています。

というわけで家族ともども、健康でセネガルの生活をエンジョイしています。もちろん、仕事も頑張っています。

それでは、次にリレーする方を紹介します。大阪短大時代のゴルフ仲間でありライバルのポリテクセンター兵庫の寺田さんです。今もEメールでゴルフ結果をやり取りする仲です。

それでは、寺田さんお願いします。

リレートーク【2】

大和ハウス工業(株) 京都支店 岡野 孝二

大学を卒業して

リレートークということで突然大学卓球部の先輩である酒井聖司さんから電話を受け、書かせていただくことになりました。酒井先輩とはピン球を互いに打ち合った仲ですが、試合の時は体に似合わず細かな動きからの攻撃をされ、なかなか勝たせてもらえなかった思い出があります。前々回のリレートークの宮崎君は後輩にあたり、確か初心者からの入部でなんとかピンポンから卓球というスポーツがわかったくらいになったような思い出があります。

このようなことを思い出すと大学での4年間が思

い出されます。私は大学では学生寮にお世話になり、クラブもやり勉強の方も進級できる程度はさせてもらった思い出があります。就職の方は、もともと民間会社希望であり、建築というものを実際に携わりたく現在に至っております。大学での専門的知識や指導的知識は実際参考になっており、あの時もう少しやっておけばと思う時があります。

現在卒業してから17年目となりますが今でも現場の方を見ており、協力業者の育成・職方の育成・後輩への指導といろいろの場面で教育する場に立つことがあります。当社は建築の工業化を進めている

会社であり、ある程度工場の方で材料を製品化してそれを現場で組み立てる作業を行っているのですが、その中でもやはり技能は必要なものであり、決まったものを決まった方法で施工するには技能の簡素化が必要となりますが、その中にはやはり技術なくしてそこには到達しないのです。

またこの仕事に従事して一番むずかしいのは、いかにして顧客満足を得られるかということです。図面どおりやっていけばいいのではなく、各施主の考え、生活形態、性格はまちまちであり、その方々に満足していただくのは、工程面・品質面に付け加え精神的な面も重大であり、自分一人で頑張ってもで

きるのではなく、営業・設計・事務員から各職方に至るまで気持ちをこめた仕事をしなくては満足していただけないのです。各自が本当に施主の気持ちとなり、こうすればより良くなるのではないかと考えて進めなくては、真の顧客満足は得られないということです。

以上最後は今直面していることを書かせていただきましたが、次のリレートークは同級生であり同じ故郷で現在雇用・能力開発機構本部で活躍されている伊勢崎氏に依頼しましたので、よろしくお願ひします。

